

新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画

申請事業名(主)	特定非営利活動法人True Colors
申請事業名(副) ※任意	

入力数 主 20 字 副 0 字

申請資金分配団体名	特定非営利活動法人True Colors
-----------	----------------------

休眠預金事業への採択/申請歴	<input type="checkbox"/>	2019年度資金分配団体に採択	<input type="checkbox"/>	2019年度実行団体に採択	<input type="checkbox"/>	2020年度資金分配団体(通常枠)に申請検討中	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
	<input type="checkbox"/>	第1期新型コロナウイルス対応緊急助成に複数事業で申請						

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> 1)-①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子供の支援
	<input checked="" type="checkbox"/> 1)-②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input checked="" type="checkbox"/> 1)-③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input checked="" type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> 2)-④働くことが困難な人への支援
	<input checked="" type="checkbox"/> 2)-⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> 3)-⑥地域の働く場づくりの支援
	<input type="checkbox"/> 3)-⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input checked="" type="checkbox"/>	「カラーバリアフリー活動」を通して、先天性の色覚少数者と多数者のバリアフリーに取り組む
------------------------	-------------------------------------	---

入力数 43 字

実施時期	2020年7月 ~ 2021年8月	事業対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> ()	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	先天性障害者のお子様をお持ちの家族、教育機関、市民団体	事業対象者人数	50人から100人程度を想定しております。
------	-------------------	--------	---	---------------------------------------	-----------------------------	---------	-----------------------

I. 団体の社会的役割

(1)申請団体の目的	当団体は、色覚弱者への理解と認識を深めるための啓発を行い、色覚に適応した職場や生活の場を増やす活動により、色覚バリアフリー環境創りの一助となることを目的として設立しました。当団体の特色は「体験による」啓発活動が出来る全国唯一のNPO法人であるということです。具体的には色覚多数派は少数派の見え方体験、色覚少数派は多数派の見え方体験が出来ます。多くの人にとって目立つ色が、少数派にとって目立つ色ではない場合があります。誰にでも識別できる色使いを提唱するカラーバリアフリー活動を通じ、先天性の色覚少数者が住みやすい社会を作ることが当団体の目的です。
(2)申請団体の概要・事業内容等	I(1)に記載した目的を目指すため、当団体では①就学・就業サポート事業、②イベント・研修事業、③色覚バリアフリー商品の開発企画・製造販売事業、④色覚バリアフリーに関する情報提供ツール制作事業をはじめ、2019年も近畿圏を中心に研修会、セミナー等を開催しております(大阪同和・人権問題企業連絡会、寝屋川市人権教育協議会、茨木市天王中学校PTA、大阪市福島区役所)。

入力数 (1) 272 字 (2) 179 字

II. 事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題	コロナウイルス感染による影響により、リモートワーク、在宅勤務に象徴される様、世界は新たな社会を構成する契機を見せております。そのような新しい社会を構成することは悪いことではありませんが、その変化の過程において、少数派はいつも劣後的地位に甘んじることが多々あります。当団体がビジョンとして描くカラーバリアフリー活動も、いわゆる「3蜜」の回避からセミナー、研修会等の実施は中止となり、目的としていた啓蒙活動或いは色覚弱者への提供を考えていた商品の販売等も停滞しております。他方、経済状況の低調により、企業がこれまで通りの事業活動を維持できなくなり、業務縮小、人員削減に舵を切るであろうことは容易に予測がつくところです。その際、最も影響を受けるのは当団体が配慮すべきとしている少数派の色覚弱者であることは考えが及び、就職への影響、就職後の雇用環境、雇用条件等において多数者より劣後的に地位に甘んじることが避けなければなりません。これはまだ見えていませんが、警鐘を鳴らすべき将来を招きかねない事態かと考えます。日本にもようやくカラーバリアフリー活動の萌芽が付き始めた矢先の今回のコロナ禍は、当団体の活動においても少なからぬ影響を与え、このまま低調、放置することはこれまでの活動を否定することにもなりかねません。そして、当団体の活動への失速はそのまま配慮すべき対象へ影響することになる為、ここでそのスピードを止めるわけにはいかないと考えております。
--------------------------	---

入力数 679 字

III.申請事業

(1)申請事業の概要
当団体が活動の「幹」となり、カラーバリアフリー活動に理解、賛同して頂ける団体、個人への啓蒙活動、研修活動或いは販売活動等を推進致します。「幹」となる当団体は実行団体への管理・監督・研修を通じ、ようやく根付きつつある当該活動を加速させ、多数派、少数派が相互に認め合い、その差異を楽しめる感覚の日本社会を実現することをビジョンとして考えております。

入力数 172 字

(2)活動(資金支援) (実行団体の活動想定)	時期
当団体が実施する研修、セミナー等を通じてその社会的必要性、知識を習得して頂き、実行団体からさらに枝葉にその考えを広めて頂く活動を想定しております。具体的には、	
・学生を招いての体験学習 (想定：中学生以下)	2020年8月以降順次
・大学生、社会人を招いての討論	〃
・大学研究室等と連携してのユニバーサルデザイン活動の研鑽	〃
・企業等への主として労務分野へのガイダンス	〃
・公民館、公立施設等を利用した啓蒙活動への理解	〃

(3)活動 (資金分配団体による伴走支援)	時期
実行団体によるIII(2)の活動を伴走するため、適宜、研修、セミナー等を開催するとともに、月一回程度の定例ミーティング、イベント等実施の際の事前協力、事後報告の収集及び管理体制の逐次研鑽等をその活動の軸と捉えます。	2020年9月以降順次
また、当団体自身の活動状況、財務状況等も適宜開示し、年度末にグループ全体の総会等の開催も検討するところであります。	

(4)今回の事業実行を通じた目標	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
ユニバーサルデザイン活動推進による色覚弱者への理解の浸透と、それが当然となる新しい日本社会へのステップアップを目指します。	人の感覚、認識による部分が多く、明確な指標は揭示し難いです。	研修、セミナー、体験学習等を通じて、その認識の変化を主催者として把握する方法を考えております。	交通標識、交通案内、サイン及びシグナル、教育現場等が色覚弱者への配慮を検討することを当然とする社会を目標としたいと考えております。	助成金分配後、可及的速やかに左記目標を目指します。

(5)事業実施後 (1年後) 以降に目標とする状態
先天性の色覚少数派は日本人男性の20人に1人、女性450～500人に1人、日本全体で約320万人の方がいるといわれています。その人たちにとっての得意な色、苦手な色、見分けやすい配色、識別しにくい色の組み合わせがあります。色覚弱者だけが見える得意なこともあります。本助成終了後、その色覚弱者が馴染みやすく誇りを持てる社会、色覚弱者であることを不利に感じない社会に近づけることを目標にしたいと考えます。

入力数 199 字

IV.実行団体の募集

(1)採択予定実行団体数	5団体程度 (予定)	(2) 1 実行団体当たり助成金額	200～300万円程度を想定しております。
(3)申請数確保に向けた工夫	従来までの当団体の活動から、すでにコネクションを得ております。そのコネクションを軸に申請数の確保を進めていくと共に、団体ホームページからの情報発信による公募等を検討しております。		
(4)予定する審査方法 (審査スケジュール、審査構成、留意点等)	理事長である高橋紀子を中心として、当団体への助成金分配後、速やかに公募に入る予定です。		

V.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	理事長である高橋紀子を中心に、当団体の副理事、理事等でメンバーを構成致します。理事詳細については、定款をご確認ください。
(2)他団体との連携体制	従来までのコネクションを得ている企業、団体、学校、民間団体等と連携を取り、本件活動を盛り上げていきたいと考えております。
(3)想定されるリスクと管理体制	数値して目標とすることが難しく、人の感覚とする部分が多いため、メンバー間での認識の相違が発生する可能性があります、その相違は定期的なミーティング等によりコミュニケーションを図ることを検討しております。

VI.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
①コロナウイルス感染症に係る事業				
本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け助成金等を分配している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない。	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
本申請事業以外の事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け助成金等を分配している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
②その他、助成金等の分配の実績				
助成金の分配実績はございません。				
(2)申請事業に関連する調査研究、連携、マッチング、伴走支援の実績、事業事例等の実績				
<p>2019年は色覚問題「見えている色はそれぞれ違う」と称して大阪同和・人権問題企業連絡会、寝屋川市人権教育協議会にて、同じく「ものの見え方は人それぞれ」と称して茨木市天王中学校PTAにて、同じく「展示と体験」として大阪市福島区役所にてそれぞれ実施、2020年は滋賀県近江八幡市立小学校での講演と体験研修、ZOOMでの新潟の敬愛学園大学授業も活動も実施しております。2018年以前の実績については、内閣府NPOホームページ参照(https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/027003435)をご確認ください。</p> <p>その他新聞等出稿も多数 (http://www.truecolors.jp/media.html) しております。</p> <p>活動状況は当団体ホームページ、フェイスブック（体感！十人十色）、ツイッター、インスタグラムから随時情報を発信し、実績の紹介をさせて頂いております。</p>				